

第8回ワールドゲームズ高雄大会の成果



国際スポーツ団体総連合 (GAISF/SportAccord) 理事
特定非営利活動法人
日本ワールドゲームズ協会執行理事 (国際担当)
師岡 文男

ワールドゲームズの目的のひとつは、「スポーツはオリンピック種目だけではないことを広く世界に知らせ、多種多様なスポーツを健全に普及させること」です。その点、現状ではオリンピックを招致できる可能性がほとんどない台湾で、北京五輪の翌年に開催された第8回大会には当初の予測の約2倍の延べ113万人の観客が集まり、ワールドゲームズの目的の達成に大きく貢献したといえるでしょう。メインスタジアムで開催された開会式・閉会式のチケットが売り切れたほか、同会場で競技が行われたフライングディスクのチケットが3万9500枚、7人制ラグビーのチケットも3万5000枚が売れました。報道も国際110社・台湾123社が熱戦の様様を連日現地から発信し、147カ国でTV放送され、オリンピック種目以外のスポーツにも観客を魅了する素晴らしい種目が沢山あることを伝えました。日本でもNHK・フジ・CBCテレビが開会式を報道したほか、TBSが毎朝ニュース番組で大会の様様を伝え、BS-TBSが8月9日(土)と10日(日)に全種目計2時間の大会総集編を全国テレビ放送しました。そのほかラジオ日本、新聞も8紙、インターネットなどでも多くの報道がなされました。特に今回はソフトボールがオリンピック競技からはずされワールドゲームズの公開競技に戻ってきたり、ワールドゲームズ競技の空手・ローラースポーツ・スカッシュ・7人制ラグビーが2012年ロンドン五輪の競技候補になったりとオリンピック競技と比べても劣ることがないスポーツが多く存在することがアピールできた点も大きな成果であったといえるでしょう。

さて、もうひとつの目的「民族、国家間の紛争や思惑に利用されない国際スポーツ大会の実現」は、100%とはいえないものの、ぎりぎりの線で一応守られたと評価できるかもしれません。大会組織委員会が大会開始直前になって「中華民国 馬英九総統」が開会宣言を行うことを決定し、大会中「中華民国 (Republic of China)」の名称を使ったり、中華民国国旗を会場に持ち込むことを許可しても、中国選手団は表立った批判をすることなく、「開会式当日の夜便で到着したために参加登録手続きが間に合わなかった」「帰国便のスケジュールの関係で」などの理由で中華民国の馬英九総統が出席する開会式・閉会式に欠席ただけで、競技には予定通り参加し、モスクワやロスアンゼルス五輪のようなボイコットは起こりませんでした。「ひとつの中国政策」を堅持する中国がこのような柔軟な対応をしたことで、ワールドゲームズの目的はすれすれの線で一応守られたといえるでしょう。

さて、次回2013年コロンビア カリ大会は初の南米での開催であり、2016年の初の南米での五輪、リオ大会に先駆けての大会であるだけに、ワールドゲームズの実存意義がますます評価される大会になることが期待されています。